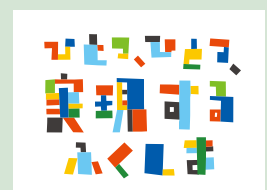


福島林業

No. **730**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



6

2025

監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 爽やかな朝



はじめて南会津地域で勤務して 感じたこと

会津森林管理署南会津支署長
金子 友次

令和六年四月より林野庁関東森林管理局会津森林管理署南会津支署長として、勤務しております金子です。どうぞよろしくお願いたします。
また、日頃より、国有林野事業の業務運営にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、私は入庁以来、会津での勤務は初めてでして、これまで関東森林管理局（前橋市）や福島県内でも浜通り、中通り各森林管理署で木材利用等の部署での勤務が大半で、豊かな自然や大きな水源を抱えるような当地域に勤務して、日々新鮮さを感じております。当支署は南会津町（旧田島町を除く）、只見町、松枝岐村の二町一村に所在する国有林約一万余ヘクタールを管轄し、関東森林管理局管内で一番の面積を誇っています。

その中で圧倒的存在感があるのは尾瀬ではないでしょうか。四季折々に見せる植生の変化と景色が織成す世界観は見て、実感してこそ味わえる自然からの贈り物です。活字では伝えられないものがあります。

他にも、東北一の標高を誇る燧ヶ岳、山頂に平坦な湿原を持つ田代山、会津駒ヶ岳、只見町の越後三山の山々が雪崩で削られ急峻で複雑な摂食地形が象徴的なユネスコエコパーク登録エリアなど管轄内を紹介しきれません。

私はこれまで、仕事で山といえば、素材生産事業地や造林事業地ばかりでしたが、最近この地で管轄内を巡り思うこと。それは、自然（山）「以下、（自然と記載）」と人との共生の必要性です。保護・維持すべき尾瀬などの希少性の高いエリアは別として、そのほかの広葉樹林や手入れ不足の森林では、古来日本にあった山の恵みを頂く文化が、現代社会にも必要なのではないかと感じています。例えば、当地域でも広がり続けるナラ枯れの蔓延です。昔はクリ、ナラなどは薪炭林として利用される中で、自然が回復できるサイクルや規模で自然の恵を頂き、人が入ることで里山が整備され、結果、高齢過熟林分とならずカシナガの侵入を抑制し、獣害の発生も抑えられていたのではないのでしょうか。

今一度、自然を壊さない範囲で、モラルを持ち自然と人が共生することが、現代社会に必要なのではないかと考えることが多く、豊かな森林資源を有する我が国で、木材資源を利用する人以外にも、自然に癒しを求める人々が往来し、人と自然とが結びつくことで観光資源にもなり得るなど、様々な可能性を秘めている宝の山があちこちに存在しています。単純にそうならない現実もありますが、次世代では自然がもつと脚光を浴び、様々な形で自然が利用され、適正な管理がされる時代の到来を山官としてやってきた私は、ひとり勝手に思いめぐらす次第です。

《も く じ》

とびら

はじめて南会津地域で勤務して感じたこと

- 会津森林管理署南会津支署長 金子 友次…1
- 福島県の山地災害……………2
- 林業研究センターだより……………3～4
- 森林土木工事・緑化活動の優良団体・事業者等が決定……………5
- 女性に向けたイベント「木のスプーンづくり

- ワークショップ」を開催しました……………6
- 林業アカデミーふくしま研修日誌①……………7
- 普及指導員通信……………8
- 森林管理署メモ……………9
- 林災防だより……………10
- 木の文化を育む⑦……………11
- 木材市況・ふくしま東西南北……………12
- はなしのひろば・お知らせコーナー……………13

福島県の山地災害

福島県森林保全課

○山地災害について

近年、地球温暖化や世界的な気候変動によりゲリラ豪雨や線状降水帯と称される局所的な集中豪雨が日本全国で多発しており、県内でも度々発生しています。

このような短時間で激しい雨が山間部で降ると、多量の雨水により斜面の保持が難しくなり、山崩れや土石流などの山地災害が発生し、人的・物的被害のリスクが高まります。

国、県、市町村では毎年5月20日から6月30日までの期間を「山地災害防止キャンペーン」月間とし、ポスターの提示や山地災害危険地区の情報等をホームページへ掲載するなど、山地災害に対しての注意喚起を行っています。

また、県内の山地災害に関する情報収集について、「山地防災ヘルパー」の認定を行うとともに講習会などを行い、パトロール活動の支援を行っています。



令和7年度 山地災害防止キャンペーンポスター

○福島県の地形・地質・自然条件

会津地方は奥羽山脈や越後山脈の広大な山地帯で急峻な山々が連なり、活火山地域特有の地質となっています。中通りから浜通りにかけては阿武隈高地があり、花崗岩マサ土地帯で表層崩壊が起こりやすいなどの特徴があります。

自然条件としては、福島県（会津若松、福島、小名浜の各観測所過去30年〔1991年



伊達市月館町の令和元年東日本台風被害復旧状況（左：復旧前 右：復旧後）

～2020年〕の年間平均降水量は約1,300ミリ（日本の平均1,700ミリ）と全国平均を下回るものの、梅雨前線や台風などによる局地的な集中豪雨の増加に加え、環太平洋地震地帯の中に位置することにより地震や火山活動が活発で、山崩れや土石流、地すべり、なだれなどの山地災害の危険を常に抱えているといえます。

加えて、福島県内には複数の断層が分布しており、これらの断層帯は山間部や急傾斜地と隣接することが多く、地震に伴い地盤の緩みを生じさせ、土砂災害の引き金となるおそれもあります。

そのため、梅雨期や台風時の局地的な集中豪雨によって、どこでも大きな被害を受ける可能性があることから、地震と豪雨の複合的な災害を想定した備えを含め、日頃から土砂災害への対策を講じておくことが重要です。

山地災害危険地区マップ 山地災害危険地区マップ



（福島県森林計画課ホームページ森林情報発信システム「ふくしま森まっぷ」参照）
<https://f-mori-map.maps.arcgis.com/home/index.html>

○危険箇所を知ろう！

災害に備えるためお住まいの地域で山地災害のおそれのある箇所がどこにあるか知っておく必要があります。

福島県では山腹崩壊や崩壊した土砂の流出などが発生又は発生する危険があり、その被害が人家・公共施設等に直接影響する恐れのある地区を調査し、「山地災害危険地区」としてお知らせしています。身近に危険な箇所がないかどうか、あらかじめ確認しておきましょう。



林業研究センターだより

令和六年度の 主な研究成果



キリ玉苗定植後の様子

福島県林業研究センター

1 はじめに

林業研究センターでは、林業における地域課題を解決するため様々な研究を行っております。

今回は、令和六年度の研究成果の概要をご紹介します。

なお、成果は、「普及に移しうる成果」、「参考となる成果」、「放射線関連支援技術情報」の三区分からなり、林業研究センターホームページに公表しています。

2 令和六年度

普及に移しうる成果

(1) 3Dスキャナ等搭載ドローンと深層学習を活用した帰還困難区域



図-1 ドローン撮影の様子

等の森林資源利用システムの開発

(共同研究・大和田測量設計(株)、
日本大学・溝口准教授(現山口東
京理科大学教授))

空間線量率の高い地域を含む森林

の安全な利用や適切な管理に向け、先端技術を活用した新たなシステム開発を、県内の企業や大学との共同により進めました。3Dスキャナなどを搭載したドローンにより森林の上空から取得したデータを人工知能などで解析し、空間線量率マップや森林資源の情報を出力するシステム(森林資源利用システム)です(図-1参照)。今後は空間線量率等の測定精度の検証と実証的利用を進める予定です。

(2) キリ「玉植苗」は初期成長を損なわずに小型化できる
当センターでこれまでに開発した



図-2 キリ玉植苗

「玉植苗(たまうえなえ)」(図-2参照)は、植えた後の初期の成長が良好な一方、根鉢が大きいため、運搬時などに作業の負担が大きいという課題がありました。そこで、従来の約半分の大きさの玉植苗を作成し、植栽一年後の樹高を従来の玉植苗と比較したところ、両者は同程度でした。このことから初期成長を損なわずに、小型化できることが分かりました。

(3) Google Earthを利用した海岸防災マツ林の林冠高推定

震災後に植栽した海岸防災林の本数調整伐の実施基準は上層木の樹高(林冠高)となりますが、全域での人力調査は困難です。そこで、人力によらず林冠高を推定する手法を検討しました。その結果、Google Earth画像を解析することにより、林冠高推定が可能であることが分かりました。

(4) クロモジ枝葉採取による精油採取効率の向上

クロモジに含まれる精油成分の多くは、枝葉に存在しています。実際

にクロモジの採取から精油の販売まで実施している業者の協力により、枝葉のみ採取した場合の精油採取効率を調査しました。その結果、枝葉のみの採取は、従来の全体採取と比べて、抽出作業時間が大きく短縮され、精油量は従来方法の約九割程度を確保できることが分かりました。

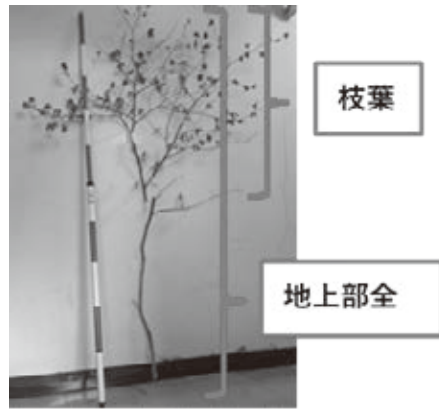


図-3 採取方法別イメージ

3 令和六年度 参考となる成果

福島県のオリジナル品種である「ふくふくしめじ」について、菌床の製造コストの低減のため、より安価に入手できる籾殻（もみがら）を使った培地で栽培試験を行った結果、きのこの発生を確認できました（図-4）。また、現在利用している



図-4 籾殻培地の発生状況

菌株（福島H106）と収穫期間が重複しない新品種開発のため、野生株で菌床栽培を実施した結果、新たに六株できのこの発生が確認できました。更に、これまで有効に活用されていなかった広葉樹の小・中径材の新たな活用方法として、小割にしたラミナを集成したフリー板を試作した結果を報告しました。

4 令和六年度 放射線関連支援技術情報 に関する調査

(1) きこの原木に利用するコナラに
コナラの幹の放射性セシウム（ ^{137}Cs ）の濃度を、木を伐倒せずに、一部位から簡易的に推定する手法として、これまでは当年枝、葉の利用が提案

されてきました。それに対し今回は、萌芽更新後のコナラであれば、幹に電動ドリルを貫入して採取した木くずからでも幹の ^{137}Cs 濃度を推定できることを示しました（図-5）。

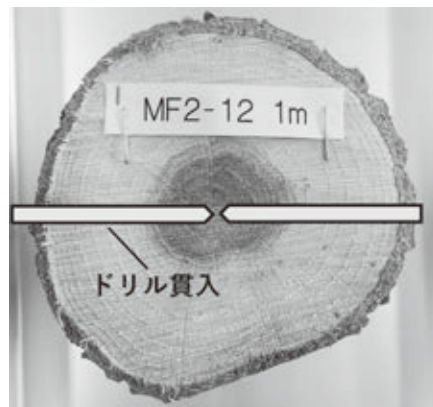


図-5 幹円盤とドリル貫入の模式図

また、カリウム肥料を利用したコナラへの ^{137}Cs の吸収抑制手法に関する成果を二つ公表しました。具体的には、カリウム肥料の散布量に応じてコナラ植栽木の葉の ^{137}Cs 濃度が低減すること、カリウム肥料散布後は森林土壌の深度方向にカリウムが流下するとともに濃度が年々減少することです。

(2) 山菜、きのこに関する調査
ワラビの圃場栽培にあたって、 ^{137}Cs を含む野生ワラビの地下茎を移

植した場合の影響を調査しました。その結果、地下茎に含まれる ^{137}Cs による可食部の ^{137}Cs 濃度への影響は、移植後一年目には認められるものの、二年目以降には非常に小さくなることになりました（図-6）。



図-6 採取時期のワラビ可食部

シイタケ栽培での ^{137}Cs 移行抑制手法検討に向け、液体培地を利用して無機栄養成分が菌糸体への ^{137}Cs 移行に与える影響を調査しました。その結果、培地へのカリウム、窒素の添加によって菌糸体への ^{137}Cs 移行が減少する傾向があることがわかりました。

森林土木工事・緑化活動の優良団体・事業者等が決定

(公社) 福島県森林・林業・緑化協会

令和七年五月十五日(木)、当協会の令和七年度第一回役員会において、令和六年度施工優良森林土木工事等が決定されました。

緑化功労者

表彰は、六月十三日に開催される当協会の令和七度通常総会の席上で行われます。
表彰の内容につきましては次のとおりです。

優良森林土木工事等表彰

優良森林土木工事等表彰は、工事施工者の技術の向上と工事の安全施工の確保及び技術者の育成を図ることを目的に毎年行っているものです。表彰の対象となる工事は、地方林業協会から推薦のあった令和六年度施工の森林土木工事で、福島県と当協会で構成する表彰審査委員会の審査により選考されます。

令和六年度については、施工技術、工事の出来ばえ、工程管理、安全管理等が優れているとして、治山事業の部で八社、林道事業の部で五社、優秀工事監督者として十三人が受賞されました。

緑化功労者は、緑化活動に永年にもわたって貢献し、その功績が顕著であった方を表彰するものです。いわき市の明神里山実行会は、芳賀清会長を中心に、荒廃していた明神里山の再生・整備と地域の活性化をめざし、下草刈りや遊歩道整備に加え、桜の木の植樹祭、原木なめこの収穫イベント、登山口・山頂への看板設置、東屋設置等の活動を行っており、これらの森林整備活動を通じ緑化の推進に大きな功績を上げ、地域社会の活性化に寄与した功績により今年度受賞されました。

ふくしま森づくり大賞

ふくしま森づくり大賞は、森づくり活動や森林文化の継承を通して、緑豊かなふくしまの創造に貢献した優れた個人や団体を表彰するもので、ふくしま森

づくり大賞審査会において、各市・地方緑化推進委員会、林業会議構成団体から推薦のあった方の中から選ばれます。

残念ながら、令和六年度は、該当する団体はありませんでした。

当協会は、県土の保全、地域の安全・安心を確保するために日々研鑽を積んでいる事業者の方々の功績を広く県民にお知らせするとともに、県民の森づくり活動への参加意識の高揚を図り、多様な主体による森づくり活動を促進するため、今後も表彰事業を続けてまいります。



明神里山実行会の活動(東屋設置)

1 優良森林土木工事受賞者

(1) 治山事業の部

推薦協会	工事名(地区名)	工事施工者
県北	復旧治山(栗生山地区)	(株)ODATE工業
県中	治山施設(赤木地区)	(株)石覚組
県南	治山施設(中林地区)	(株)田村組
会津	復旧治山(若林地区)	(株)飯豊建設
南会津	復旧治山(宮ノ上山地区)	株南会西部建設コーポレーション 南会津事業所
相馬	治山施設(湯舟地区)	後藤建設工業(株)
双葉	防災林造成(浪江地区)	横山・シイナ特定建設工事 共同企業体
いわき	治山施設(小塚地区)	(株)山一緑化土木

(2) 林道事業の部

推薦協会	工事名(路線名)	工事施工者
県北	林業専用道(霊山林業専用道2号線)	(株)利根川組
南会津	森林居住環境(七ヶ岳線)	東邦土建工業(株)
相馬	令和5年災 林道仲入線災害復旧(仲入線1~3号箇所)	豊川建設(株)
双葉	林業専用道(平沢線)	(有)河原組
いわき	林道施設災害復旧(田代川平線)	(株)矢城建設

2 優秀工事監督者受賞者

推薦協会	所属事業所	氏名
県北	(株)ODATE工業	佐藤 稔之
	(株)利根川組	荒井 晃一
県中	(株)石覚組	荒井清太郎
県南	(株)田村組	緑川 隆夫
会津	(株)飯豊建設	斎藤 則男
南会津	株南会西部建設コーポレーション 南会津事業所	大桃 英樹
	東邦土建工業(株)	湯田 涼介
相馬	後藤建設工業(株)	小林 幸一
	豊川建設(株)	齋藤 貴永
双葉	(株)シイナ重建	竹田 芳博
	(有)河原組	濱谷孝太郎
いわき	(株)山一緑化土木	石井 政宅
	(株)矢城建設	熊谷 辰夫

3 緑化功労者受賞者

市町村名	氏名
いわき市	明神里山実行会 会長 芳賀 清

女性に向けたイベント 「木のスプーンづくりワークショップ」を開催しました

(公社)福島県森林・林業・緑化協会
福島県林業労働者確保支援センター

令和七年三月二三日(日)に、女性に向けたイベント「木のスプーンづくりワークショップ」を開催しました。このイベントは、当協会が実施する森林・林業担い手育成事業の一つとして、森林や林業に興味関心のある女性に向けて見学ツアーやワークショップなどを開催するもので、年二回ほどのペースで行っています。

今回のイベントは、須賀川市在住の木工作家「かわらまち木工舎」こと中山由紀子さんを迎えてのワークショップ

で、参加者は案内チラシや当協会のウェブサイトのほか、友人・知人からの紹介、中山さんの作品を紹介するSNSなどから情報を得てご応募いただき、計十八名での開催となりました。

木のスプーンづくりは、山桜やりんごの素材から、中山さんがあらかじめ切り出して成型し、扱い易いよう直前まで浸水したスプーン素地を用いて、①彫刻刀を使ってスプーンのくぼみを彫り、②目の粗さ順に準備した五枚の

紙やすりを使用して磨き、③焼きペンド名入れをし、④全体にまんべんなくオイルを塗り、⑤一晚寝かせてオイルをなじませて完成、という工程で行いました。

参加された方は、彫り始めは思った以上に木が硬いうえ、慣れない彫刻刀での作業に苦労している様子でしたが、中山さんが会場を回り一人一人に声をかけ、力の入れ方や刃の使い方などを指導すると徐々にコツをつかみ、集中して取り組んでいました。オイル

を塗った瞬間に浮かび上がる鮮やかな木目には感嘆の声も上がっていました。日々の暮らしに身近なもののづくりを通して、素材としての木の美しさや温かさ、作る楽しさを体験できる中山さんのワークショップは人気があり、今回も、林業関係の方だけでなく一般の方にも多くご参加いただきました。出来上がった作品とともに、中山さんから日々のお手入れ方法についての説明書きと修繕用の紙やすりを受け取り、「長く大切に使いたい」と話してくださった方や、丸太からスプーン素材として成形するまでの工程について質問する方、使用する道具について詳しく質問する方もいらっしゃいました。

森や木について考えるきっかけづくりとして、今後もワークショップを定期的に開催し、楽しみながら木と触れ合える場を提供していきたいと思っています。



講師を務める中山由紀子さん（かわらまち木工舎）



ワークショップの様子



はじめに中山さんから作業工程や道具の使い方を教わる



一人一人に声をかけて進捗を確かめながら進めます



ほぼ全員が大小1本ずつスプーンを完成させました

林業アカデミーふくしま研修日誌①



○はじめに

この研修日誌では、就業前長期研修の一年間にわたる歩みを紹介していきます。

四期生が本県の林業を支える次世代の担い手として、「知識・技術・資格・インターン」の四つの柱で実践力を身につけていく姿を、月毎の研修内容紹介と研修生の感想を通してお届けします。

○四月の研修内容

●森林・林業に関する幅広い「知識」の習得
「森林・林業の基礎」

林業技術者に必要な基礎知識を習得するため、本県の森林や林業の現状などについて学びました。

「林業の仕事」

林業の現場の仕事を知らするため、間伐施業地と一貫施業で行われた造林地の現場を見学しました。

「林業の手道具」

林業の基本中の基本である「ナタ」や「ノコギリ」など手道具の扱い方を学びました。刃物を扱う上でのリスクアセスメントなども考えました。

「特用林産」

特用林産物の概要と現状を学ぶとともに、しいたけの種駒を原木に打

ち込む作業と伏せ込みを体験しました。

「森林保護」

気象害、虫害、獣害とその対応などを学び、近年増加が懸念されるシカの食害対策を実際の現場で体験しました。

●森林施業「技術」の習得 「安全の基礎」

就業前長期研修において最も重点的に取り組んでいる『安全』について、林内作業の労災事故事例などから学びました。

「チェーンソー伐木造材技術」

特別教育で学んだ基礎や基本を身につけるために、チェーンソーの持ち方や丸太を伐る時の姿勢、チェーンブレイキの徹底など細かく教えていただきました。一年間かけて安全な操作を身につけていきます。

「周囲測量」

森林施業に欠かせない測量技術を習得するため、地図の読み方やシルバコンパスの使い方、ポケットコンパスによる測量の基本を学びました。

●資格の取得

「刈払・伐木等業務の基礎」

刈払機とチェーンソーを操作するために特別教育を受講しました。

「救命訓練」

万が一の事態に備え、適切な救命救急処置の方法を学びました。止血

の方法や、負傷箇所ごとに異なる固定の方法などを身につけました。

●インターンシップの実施等

「社会人教養（コミュニケーションスキル）」入講して最初の講義は、コミュニケーションスキルを学びました。これから一年間ともに歩む仲間と親睦を深めつつ、人との関わり方、コミュニケーションの重要性を学びました。

「就職ガイダンス」

七月のインターンシップに向けて就職ガイダンスを行い、県内の森林組合や林業事業体でどんな仕事をしているのか、就職先を選ぶ際の留意点などを学びました。

○研修生の感想

猪股楓斗（いのまたふうと）

私が四月の研修の中で印象に残っていることは、チェーンソーの扱い方と安全管理についてです。チェーンソーを一度も使ったことがなく使うのが怖いと思っていましたが、講師の方々の優しい指導と林業の面白さと安全を教えていただき、林業に対しての考え方が変わり、すごく楽しく勉強ができています。



真っ直ぐ切る練習



林内にセンサーカメラ設置

て楽しくなってきたので、これからもっともっと練習して現場に出ても即戦力として作業できるように頑張っていきたいと思います。

下刈りは以前から業務で行っていましたが、改めて基本を学ぶことができました。

それ以上に特用林産というきのこの栽培なども学ぶことができ、林業に関わる全体のことを一から学ぶことができました。

自分はすでに林業事業体に就職をしています。一年後には知識を会社を持ち帰り、少しでも仕事に活かせるようにしたいと考えています。

まだ始まったばかりですが、アカデミーの研修生同士支え合い、切磋琢磨しながら毎日楽しく生活できています。これからたくさん勉強して一年後に胸を張って卒業できるように頑張ります。

木工教室出前講座による森林環境教育の取組

福島県北農林事務所 林業普及指導員 小 棕 絵 里

1 はじめに

ふくしまの森林を次世代へと引き継ぐためには、未来を担う子供達に森や木を身近に感じてもらう必要があります。令和6年度に実施した福島県森林環境税に関するアンケートでは、福島県森林環境税を財源とした取組のうち、「小中学生などを対象とした森林環境学習の実施」を大切な取組として選択した人が24.4%おり、小中学校における森林環境教育が重要視されている結果となりました。

一方、現場で取り組む先生からは、「森林環境教育を実施することが重荷になっている。」との声もあることから、小学校への木工教室出前講座を実施し、学校における森林環境教育を支援する取組を行いました。

2 取組内容

県が実施している「木とのふれあい創出事業」では、製材工場から発生した端材、残材を工作資材として、希望する小中学校に提供しています。その中で出前講座実施の申込みがあった学校を対象に支援を行い、令和5年度には4校11クラス261名、令和6年度は4校7クラス179名に対し、出前講座を実施しました。

はじめに、講師の福島県もりの案内人の会県北支部会員及び林業普及指導員が自己紹介を行い、森林と関わる仕事の内容を話しました。自己紹介の後に、森林の働きに関する講話を行い、森林の公益的機能や再生林の重要性、森林から木を伐り出して木材になるまでの流れなど幅広い内容の話をしました。

また、のこぎり、玄翁げんのうの使い方については、林業普及指導員だから教えられる内容を追加したクイズ形式のプリントを使った説明や実演により、以下のポイントを伝えました。

- のこぎりは木材を削りながら切っていくこと。
- のこ刃は柔らかいため力を入れすぎると曲がること。
- 節は堅いので切る際は避けた方がよいこと。
- 木材の厚さ、木目の向きにより釘の長さを変えること等。

説明後、順調に作業を進める児童は少数でしたが、個別に声をかけながら、作業が上手くいくよう手助けすることで、多くの児童が作業のコツをつかんでいました。授業終了時に感想を聞いたところ、「はじめは難しかったが、やり方を教えてもらうことでだんだんできるようになり、楽しかった。」との感想が多く寄せられました。先生からは、「配付資材は様々な部材があり、児童たちは楽しそうだった。担任だけではこまめの指導はできないので、出前講座を実施してもらえて良かった。」といった感想が聞かれました。

3 今後の取組

本県の豊かな森林を守り育て、次の世代に引き継ぐために、子供達へ森林の大切さや木材の良さ、面白さを伝えることは、重要な取組のひとつです。引き続き、子供達に人と森林や木材との関わりをわかりやすく伝え、実際に木に触れ親しんでもらう取組を進めるとともに、今後は、森林環境教育を行う学校への支援をより一層充実させるため、木材等の特徴を知っている林業普及指導員だから話せる木工工作のやり方等を出前講座で直接伝えていくことに加えて、福島県農林水産部公式YouTubeチャンネルで動画を公開する等の取組を考えています。



写真1 福島市立水保小学校での授業の様子

森林管理署メロ

環境放射線モニタリング調査

関東森林管理局 森林放射性物質汚染対策センター

平成二三年三月十一日に発生した巨大地震による東日本大震災では、地震と津波が引き金となって東京電力福島第一発電所で事故が発生し、この事故により放射性物質が環境中に放出されました。

森林放射性物質汚染対策センターは、国有林内における放射性物質対策を実施するため、平成二四年四月に設置された組織です。

当センターでは、地域産業の柱の一つである林業・木材産業の早期再開に向け、避難指示が解除された国有林において、平成二六年度から環境放射線モニタリングを実施しており、今回はその結果等をご紹介します。

調査は避難指示が解除された十市町村の国有林を一キロ四方のメッシュを基本とし、市町村等からの要望も踏まえ空間線量率を一、四三一点で、伐倒による立木中濃度調査を十七地点で、継続木による立木中

濃度調査を三三地点で、土壌採取による土壌中濃度調査を三八地点で実施しています。

空間線量率は〇・〇八 μ Sv/h（二七 μ Sv/hで平均は〇・五八 μ Sv/h）となっています。

森林に最も多く降下した放射性セシウムの放射線量は一定の割合で減衰しますが、森林内の放射線量はこれより若干早い速度で減衰しています。

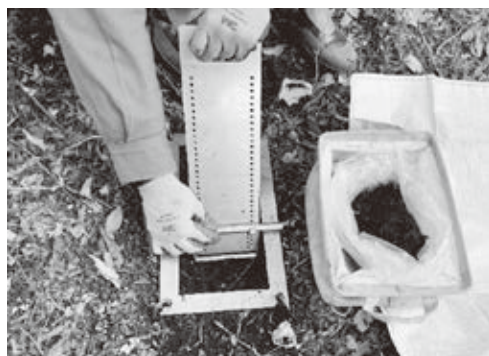
立木中の濃度を見てみると、事故当時に放射性物質を大量に含んだ放射性雲（プルーム）が通過、又は雨等で降り注いだことから立木の表面が高濃度に汚染されましたが、落葉落枝や雨等で地表に落下し、立木の生産活動による循環はあるものの、年々その濃度は低下しています。土壌中の濃度については、多くの地点において表層に近い部分で高い濃度が検出されていますが、一方で表層から五〇ミ以下

でも高い濃度を検出しており、土壌の深い部分で発達する縦方向の構造や亀裂、根成孔隙、土壌生物による生活環境が影響していると考えられています。

森林空間中の放射線量は、地上部の放射性セシウムが土壌部に移行し年々深い位置に浸透していること、土が持つ放射性セシウムの固着能力と土中水分により遮蔽されたこと等により、物理学減衰率より若干早い減衰を示しています。

東京電力福島第一発電所事故から十四年が経過しましたが、今も放射線量が

高く立ち入りが制限されています。



左上：空間線量率測定 左下：辺材採取 右上：心材採取 右下：土壌採取

れた「帰還困難区域」の指定が継続する地域があります。当センターでは、国内の研究機関と連携し放射能で汚染された森林が「環境」と「林業」としての本来の姿を取り戻すため、森林内の放射性物質の動態調査を継続していきます。

「林一災一防一だ一より一」

林業労働災害防止協会 福島県支部

令和七年度事業計画

日頃より、当支部の運営に御支援・御協力を頂き感謝申し上げます。

当支部では、林業の労働災害防止への取り組みとして、安全衛生教育、技能講習、集団指導会等の実施や安全衛生技術情報・労働災害情報の提供などを通じて、林業の現場で労働災害防止活動が着実に実践されるよう、さまざまな事業活動を展開しています。

○令和七年度事業計画の基本方針

第十四次労働災害防止計画及び林業労働災害防止計画（二〇二二～二〇二七年）の二年目（令和六年）の県内の年間死傷者数を見ると、林業においては、三二名（内死亡一名）の発生があり令和元年～令和四年平均の三〇名と比べて微増となった。また、木材木製品製造業においては、二六名の発生となっており令和元年～令和四年平均で二八名と比べて七割減少となった。

このことから、新たな五カ年計画（死傷災害五割以上の減少）を達成すべく、より確実な対策を県・林業関係団体と連携しながら取り組むものとする。特に、昨年度に引き続き、厚生労働省が伐木等作業における安全対策として定めた「労働安全衛生規則の一部改正」及び「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」並びに新たな「林業・木材製造業労働災害防止規程」（令和五年十二月十一日適用）の内容を会員並びに関係林業事業体に対し周知を図るとともに、以下の事業を積極的に取り組む。

○実施事項（主たるもの）

具体的に取り組む事項は以下のとおりです。皆様の御協力を得ながら進めていく計画ですのでよろしくお願ひします。

1 安全衛生管理活動事業

先山ゼロ災推進巡回指導、安全

衛生指導員等の研修会開催など。

2 労働災害防止特別活動推進事業

振動障害特殊健康診断受診の促進など。

3 安全衛生教育支援事業

林業架線作業主任者・木材加工用機械・伐木等特別教育・機械集材装置・車両系木材伐出機械・刈払機・ロープ高所作業・伐木等業務従事者安全衛生教育の実施や伐木初心者に対する伐木実技訓練、林業アカデミーふくしまに対する安全指導や実技指導等に関する協力など。

※実施日時等はホームページ（<https://www.fmokuren.jp/>）を参照してください。

4 安全衛生対策支援事業

講師の養成、安全衛生大会、チェー



伐木等特別教育

ンソー選手権公式審判員の養成、林業の技能検定制度技能評価者養成等の協力、地域協議会への参加など。

5 林業労働災害防止に関連する受託業務

緑の雇用現場技能者育成、緑の雇用林業労働安全推進対策、伐採安全アドバイザー事業受託など。

6 会員への補助事業等

安全装備（ヘルメット、保護衣、安全ブーツ、防振手袋）購入補助、振動障害二次健診の受診補助、木材加工用機械技能講習支援など。



ロープ高所作業特別教育

木の文化を育む⁽⁷⁵⁾

竹を活かしたプロジェクト「里山の竹林整備を愉しむ暮らし」 (特定非営利活動法人いわき竹プロジェクト)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

人が手入れをすることで環境が保たれていた「里山」は、かつてその豊富な資源が人々の生活の支えとなっていました。しかし時を経て時代が変わると里山の資源を暮らしに活かす機会が減ったことから管理が行き届かず、美しい里山の風景が失われる事態に至っています。

○竹のある暮らし

里山の竹林整備を通して日々の暮らしをより豊かに愉しむ、特定非営利活動法人いわき竹プロジェクト代表 諸橋鑑一郎さん（いわき市）は、二〇〇六年三月に共通の趣味をもつ地域の仲間とともに、NPO法人いわき竹プロジェクトを設立しました。二〇年が経とうとしている今日も、いわき市内の竹林整備を行っているが、竹を活用した竹細工講座の運営や竹文化の学修と啓発、竹製品の企画・開発などの普及活動に取り組んでいます。竹の活用で人生をもっと愉しくをテーマに諸橋さんは、さまざまな竹プロジェクトを起

ち上げ、里山の竹林整備をしながら竹のある暮らしを愉しんでいます。

多くの人々へ里山保全の大切さや竹を活用した暮らしの知恵や文化を共有し、老若男女へ里山の竹を活用する術を伝えていきます。

○竹灯籠製作ワークショップ

NPO法人いわき竹プロジェクトの活動として、今年の三月は、いわき市内の専称寺にて、竹灯籠を製作するワークショップを開催しました。専称寺の竹を活用して製作した竹灯籠の明かりは、専称寺の梅をライトアップするイベントで使用され、幻想的な雰囲気を出し、訪れる人々を魅了しました。竹灯籠は除夜の鐘を撞く際にも使用される予定です。

○竹細工講座

恒例の竹細工講座は老若男女に人気の講座です。ミニ門松や干支の置物、竹ぼっくり、花器、物入れなど、暮らしの中で使用する様々な道具を製作します。定期的に出展しているいわき市フラワーセンターでのワー

クシヨップでは、竹トンボ、竹鉄砲、うぐいす笛などの竹玩具が子どもたちに人気です。子どもを対象とした講座では、竹の特徴や成長の話しながら、子どもたちの好奇心や関心を引き、学習意欲が高まるよう、遊びや体験を通して、楽しさを共有する時間を大切にしています。

○竹林間伐材を資源に変える

竹林整備で間伐した竹は、竹粉砕機を使用して粉砕し、家庭菜園などの土壌改良材として活用します。粉砕した竹粉に含まれる乳酸菌は、土中の微生物を活性化し、農作物の成長を促進するほか、食味や糖度も向上し、病気・害虫被害の減少にも効果があると言われています。また、いわき市内の山間部に位置する三和地区にドラム缶で竹の炭焼き窯をつくり、竹炭焼きも定期的の実施しています。竹炭には微細な穴が無数に空いており、臭いや湿気、汚れなどを吸着する作用があるため、消臭・調湿や炊飯、園芸にも重宝されています。炭焼きをしながら共通の趣味を持つ仲間と語らう時間も諸橋さんの愉しみの一つです。

焼きあがった竹炭は、JAやさい館や草木台の産直市場「田舎んぼ」など野菜の直売所で販売しています。

○まとめ

自然の恵みを得る機会が失われつつある今日、地域固有の暮らしの知

恵や文化の継承が求められます。諸橋さんはこれまでの活動を継続し、今後は地域が一体となり活動できるよう、行政と共同で活動したいと考えています。里山の美しい景観の保全や日々の暮らしが愉しく豊かなものになるよう、貴方も里山の恵みを上手に活用しながら里山暮らしを共に愉しんでみませんか。



干支の置物（巳年）



竹灯籠

県森連いわき共販における木材市況（5月分）

令和7年6月1日
福島県森林組合連合会

（単位：㎡当り千円）

樹 種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
ス ギ	4.00	9 下	12.0	11.5	
		10～13	14.0	13.5	
		24上	12.9	11.4	
	3.65	16上			
		24上	11.2	11.0	
	3.00	9 下	10.2	8.0	
		10～13	10.5	10.3	
		14～16	10.2	10.0	
		18～20	11.6	11.3	
		22上	11.7	11.3	
ヒノキ	4.00	10～13	9.0	8.8	
		14～16	13.0	12.0	
		18～20	16.0	15.0	
		22上	15.0	13.0	
	3.00	16～20	15.5	13.0	
アカマツ	4.80	18～22			
	4.00	18～22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	
	3.00	16～22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	

樹 種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
カラマツ	4.00	12下			
		13～14			
		16上			
ク リ	4.00	16上	14.0	13.0	
	3.00	16上	13.0	12.0	
モ ミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	6月の共販日
販売量は2,585㎡（前年同月比98%）でした。 市況は、スギ3m柱材、中目材ともに市毎に値を下げました。 先行きこの状況が続くと思われます。 少しずつ、虫害の影響が出てきました。伐採、出材のタイミング等充分ご考慮ください。	9日(月) 17日(火) 27日(金)

行 事 と お 知 ら せ
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 福島県森林組合連合会 木材市況 検索

ふるさとの森や樹を見直し、その美しさを守り育てることを目的として県民からの投票で決められた「ふくしま緑の百景」は県内各所に存在しています。今回はその一つである「隠津島神社」について紹介したいと思います。

郡山市湖南町の隠津島神社は、八六六年に筑紫國宇佐郡（現在の福岡県東部）の宗像大社より神様の分霊を受け、市杵島姫命（イチキシマヒメノミコト）、多紀理姫命（タギリヒメノミコト）、多岐都姫命（タギツヒメノミコト）の三女神を御祭神とする神社です。

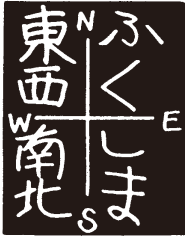
境内、社前に菅が多く生い茂るため「菅明神」とも称され、その昔干ばつが続いた際は神官が菅を採り、神前に捧げ雨祈をすれば必ず雨が降ると伝えられています。



隠津島神社 境内

る断層によって生じた岩石が発達した場所です。そんな社叢はふくしま緑の百景だけでなく県指定天然記念物（原生林）、県緑化保全地区、緑の文化財、保健保安林にも指定されている自然溢れる場所です。

隠津島神社への公共交通機関は無いいため、車のみのアクセスになりますが、梅雨を経て木々の深緑が増した林内の景色は壮観ですので、是非足を運んでみてください。



おきつしま
隠津島神社の森

福島県農林事務所 菅家 誠之

表紙の写真



「爽やかな朝」

第39回ふくしま緑の写真コンクール 特選
受賞者 藤田健三さん（福島市）
撮影場所：北塩原村
撮影スポット：裏磐梯 長瀬川

発行
人

飯沼 隆
陽光社印刷株式会社
（定価 一〇〇円）

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）

はなしの
ひろば

時は

―六月十日 時の記念日

亡き母が三〇年近く通い続けていた美容室は、緩やかな坂道の下にあった。心臓に三つもの持病をかかえていた母にとって、この坂の上り下りは、非常にきつかったに違いない。

ある日、私が車で迎えに行くと、母はもうすでに出たあとだった。視線を遠く延ばしてみると、母は、もうすでに坂を上りきっていた。車で追いついた私は、どうして待っていなかったのか、と問いつめたが、母は、困惑した表情で黙ったままだった。

母が亡くなって三年目の命日に、あの坂道を上ってみたくなった。お世話になった美容室の主も亡くなったと噂に聞いていたが、美容室の建物も解体され、もうすでに空き地になっていた。

上りきるまでわずか五分ともかからないこの坂道だが、ゆっくりと歩を進めていくと、自分の後ろから、過ぎた時間が時を越えてついてくるようだった。（母は、いつの間にか年老いた自分の足で、この一歩を踏み出し、上って行けるよるこびをかみしめていたのではないだろうか）きっとそうだ。母の歩く息遣いが、心の底から聴こえてくるようだった。

しかし、坂を上りきった時、母を問いつめたあの時の自分が蘇ってきた。（早春の匂いを胸いっぱい吸い、一生懸命に上ってきた八五歳の母を、私は、どうして褒めてあげられなかったのだろうか…）深い後悔の念に苛まれた。

時は、下り坂。時は、上り坂。

一四五話（都）

お知らせコーナー

働く方への
贈り物

林業退職金共済制度

略称：林退共（りんたいきょう）

- ★優秀な人材を確保するために、「林退共」の退職金制度に加入しましょう！
〔林退共制度は、林業で働く人たちのために国が作った「退職金制度」です。〕
- ◎安全・確実に退職金をお支払いします。
- ◎掛金は全額非課税となります。
- ◎新規加入従事者の掛金が一部免除となります。
- ★定年後、再雇用された場合、中退共制度からの通算も可能です！
- ★「一人親方」として就労される方々も、個々の親方が集まって結成した「任意組合」を通じて加入ができます。



共済手帳をお持ちの
従事者が林業界を引退する
ときは、忘れずに退職金を
請求するよう指導して
くださいね！

お問い合わせはこちらまで

独立行政法人 勤労者退職金共済機構
林業退職金共済事業本部

TEL 03-6731-2889

<https://www.rintaikyo.taisyokukin.go.jp/>



備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



たもち

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



そよりん

林地残材用アタッチメント
グラップルフォーク

GS-90LJF/LJFV

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

- ・フォークが大きく開き、木質バイオマス生産現場での端材の集積に威力を発揮
- ・不要な石を効率良く振るい落とす、格子状のフォーク型トング
- ・手元のノブスイッチだけでグラップルの各操作が簡単・楽に可能

林地残材の集積に威力を発揮するフォーク型特殊グラップル

※本機は林地残材集積用です。掘削、地盤作業には使用しないでください

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699

(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字校屋敷西5-1

(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1